



るらてる



2017年
3月
No.831

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「憐れみを受け、恵みにあずかつて、大胆に」

日本福音ルーテル西宮教会 牧師 市原止幸

さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に訓練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかつて、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

(新約聖書ヘブライ人への手紙4:14~16)



召されている現場で、種々の事態を、何とかして冷静に受け止めようと立ち止まる、その時々、幾度となく励まされている聖書箇所は数多くありますが、その一つがこのメッセージです。

神学校を卒業し、按手礼を受けて牧師とされて赴任する時、育ててくださった先輩牧師や神学校教師たちが、「激励歓送会」を設けてくださいます。

した。その折に、「み言葉を取り次ぎ、語る使命を頂いたのだから、果たすためには、語る前にまず、あなたがみ言葉(聖書)を読むだけでなく、じっくりと聴くことを大切にしたいな。」と助言くださいました。1971年でしたから、46年も前になります。以来、私なりに色んな取り組みを続けています。

その一つは、福音書の

場合ですと、その記述に登場する人々のどの人か自分が該当するだろうかと思いつくこと、ここには引用できない節数なので、どうぞ、お手元の聖書を実際にかいてみてください。マルコによる福音書9章14節以下です。

登場するのは、群衆の中で「病気の子を持つ父親」、「イエス様の弟子たち」、それに「弟子たちと議論している律法学者たち」がいます。弟子たちは人々に問いかねられ、子どもの病気に癒しを求められ、さらに、専門家である律法学者に議論を吹きかけられていきます。返答に詰まり、散々な目に遭っています。そこには、イエ

いし、「信仰のない時代」というのは、群衆と父親に対してだろう。「いつまでも共に」というのは弟子たちに。「我慢しなければならぬのか」というのは律法学者たちに向かつてと読むと、分かるような気がします。

私は、当初、不甲斐ない弟子たちに自分を当てはめていました。しかし、牧師として日々を重ねるうちに、いや、それだけではなくて、この病気の子を持つ父親でもあった気がかされていきました。「大祭司・イエスの憐れみ」を受けなければならぬ者であった父親は、まさしく、「信じます。信仰のないわたしをお助けください」(24節)と叫ばなければならぬ私です。

この箇所は、「大祭司の憐れみにお委ねします。大祭司の恵みにあずかって歩ませてくださいます。」

そこへ、イエス様が戻って来られて、その場の事情をお知りになると、三つのことを言われました。①「なんと信仰のない時代なのか。」②「いつまでわたしがあなたと共に行かれますか。」③「いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。」これらの言葉は誰に向けられたのでしょうか。そこにいたみんなにと考えてもよいと思います。

私は、当初、不甲斐ない弟子たちに自分を当てはめていました。しかし、牧師として日々を重ねるうちに、いや、それだけではなくて、この病気の子を持つ父親でもあった気がかされていきました。「大祭司・イエスの憐れみ」を受けなければならぬ者であった父親は、まさしく、「信じます。信仰のないわたしをお助けください」(24節)と叫ばなければならぬ私です。

この箇所は、「大祭司の憐れみにお委ねします。大祭司の恵みにあずかって歩ませてくださいます。」

そこへ、イエス様が戻って来られて、その場の事情をお知りになると、三つのことを言われました。①「なんと信仰のない時代なのか。」②「いつまでわたしがあなたと共に行かれますか。」③「いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。」これらの言葉は誰に向けられたのでしょうか。そこにいたみんなにと考えてもよいと思います。



Raphael (1483-1520): The transfiguration (Part), Vatican Museums.

そこへ、イエス様が戻って来られて、その場の事情をお知りになると、三つのことを言われました。①「なんと信仰のない時代なのか。」②「いつまでわたしがあなたと共に行かれますか。」③「いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。」これらの言葉は誰に向けられたのでしょうか。そこにいたみんなにと考えてもよいと思います。

聖書には召命物語がいくつも記されていますが、召命のことを英語で「call」と言います。これの原義は「呼ばれること」です。さて、パウロが信仰の父として知られるアブラハム、彼の召命物語は創世記12章1節以下に記されています。主なる神は「あなたは故郷の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」とアブラハムに告げ、彼はその言葉に従って旅立った。アブラハムのように「自分が呼ばれている声」をはっきり聞いたらよいのですが、しかし、そもそも神の声はそんなふうに聞こえるのでしょうか。「私は神に呼ばれた(声を)はつきり聞いた」と主張することは、ややもすると、召命(call)と「私は総理大臣だからただし

聖書には召命物語がいくつも記されていますが、召命のことを英語で「call」と言います。これの原義は「呼ばれること」です。さて、パウロが信仰の父として知られるアブラハム、彼の召命物語は創世記12章1節以下に記されています。主なる神は「あなたは故郷の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」とアブラハムに告げ、彼はその言葉に従って旅立った。アブラハムのように「自分が呼ばれている声」をはつきり聞いたらよいのですが、しかし、そもそも神の声はそんなふうに聞こえるのでしょうか。「私は神に呼ばれた(声を)はつきり聞いた」と主張することは、ややもすると、召命(call)と「私は総理大臣だからただし

「call」を聞いた、と描いているのではないのでしょうか。本日按手を受けられるお二人が、それぞれの場所で、「声なき声のように」「need you」と呼びかけられる声に耳を澄ましていくことを通して、その働きが「calling」になっていくことを祈ります。

岩切雄太
西宮教会 八幡教会 佐賀教会 牧師



「call」というふるまいを矛盾なく結びつけてしまうことになってしまふのだと思います。

ところで、アブラハムの召命物語を注意深く読むと、これは、彼が75歳の頃の出来事であったことが分かります。聖書の年齢を現在の年齢と同じように考えることはできませんが、それでも、アブラハムが十分に成熟した大人であったことは分かります。成熟とは、たぶん、他者の声なき声を聞き取ることができるようになることです。それは「うめき声」や「自分に」異を唱える声「のようなものです。聖書は、そんなアブラハムが「主なる神からの召命(call)」を聞いた、と描いているのではないのでしょうか。

プロジェクト 3・11 JELC東地区

3・11を憶える礼拝

日時 2017年3月11日(土) 14:00~15:00
会場 日本福音ルーテル東京教会

説教 野村治牧師 (福島いずみルーテル教会)

主催 日本福音ルーテル教会東地区



議長室から

からも、江戸幕府によるキリシタン禁教令発布の後、地位を棄てマニラへと向かい、そこに到着後40日で天に召された傑人でした。

私たちはカトリック教会に属する者ではありませんが、日本のキリスト者ですが、日本のキリスト者

たことがありました。私たちは今年を宗教改革「500年」の特別な年と位置付けていますが、カトリック教会にとつては「500年」と言えば、むしろキリスト教が日本に伝来した時代のことなのです。宣教師ザビエルが、

異なるからこそ、共に祈る

総会議長 立山忠浩

先月7日、カトリック教会の列福ミサに参列しました。ユスト高山右近

（ユストは洗礼名で「義の人」の意味）が福者に加えられることになり、白川道生事務局長と共に招待に与ったのです。大阪城ホールには1万人が集いました。

高山右近は戦国時代の荒波を生き抜いた武将な

た。さらに認識を新たに

の仲間と別れる時、「また次の日に会おうね」という意味で。

幼い頃、教会で牧師に「私たちに永遠のあしたも与えられているんだよ」と言われ、難しいことを言われるな、と思ったことを覚えています。

大学生の頃、ホスピスで実習をしました。初日に担当させて頂いた患者さんはSさんという方でした。看護師さんはSさんに「Sさん、今日から実習にいらした学生さんです。よろしくね。いっぱい話をしてあげてね」と言ってくれました。部屋を出られました。カウンセリングの実習の初日だった

「わたしは復活であり命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」（ヨハネ11:25、26）

たので自己紹介をした後Sさんの話を聞こうと必死に構えていましたが、Sさんは目を閉じられたまま全く話されませんでした。先生に呼ばれ、半分助かったと思いつつ私は「Sさん失礼します。」と言いつつSさんの部屋を去ろうとしました。その私をSさんはチラッと見られたので「あつSさん起きておられたんだ、また明日、話を聞こう。」と心に思いながらその場を失礼しました。

翌朝のミーティングで「昨夜Sさんが亡くなりました。」と言われました。私は「えっ？今日こそは話が聞けると思っていたのに」

2017年各教区の総会について

- 北海道特別教区 第37回定期総会
3月20日（月）9時開始～14時30分終了予定
日本福音ルーテル札幌教会札幌礼拝堂・スオミホールにて
 - 東教区 第54回定期総会
3月20日（月）午前9時受付
9時30分開会礼拝～16時30分終了予定
日本福音ルーテル東京教会（宣教百年記念会堂）にて
 - 東海教区 第54回定期総会
3月20日（月）10時開始～16時終了予定
日本福音ルーテル挙母教会にて
 - 西教区 本年は未開催
西教区宗教改革500年記念大会／西教区女性会教区花みずぎの集い（詳細は3面をごらんください）
 - 九州教区 本年は未開催
- ※詳細については、各教区事務所へお問い合わせください。

結晶である『争いから交わりへ』や、昨年のルンドでの両教会の共同の祈りの式と共同声明にも表現されたことでした。互いが背を向け、しばしば互いを非難し合つて来た歴史を悔い改め、互いに向き合い、対話と祈りを共にする道へと方向転換するためなのです。和解へ平和への道を刻むのです。

「平和を実現する人々は幸いです」とある（マタイ5:9）という主の教えに従い、両教会が共に祈り、学び合うのです。国家・民族・宗教の争い、自分・自国中心、不寛容、絶望の蔓延するこの世に、希望の証となることを願つて。

プロジェクト3・11
活動報告

東教区社会部長
小勝泰徳氏

はじめ、様々な教区行事の機会に献金を呼びかけ、昨年は合計で72万1162円が集められました。ことにルターナイツでの取り組みは大きな助力となりました。結果、昨年度は以下の通り支援金を送金しました。

いわき放射能市民測定室「たちね」25万円、いわき食品放射能計測所「いのり」25万円、北海道寺子屋8万円、福島移住女性支援ネットワーク8万円、松本子ども留学8万円、合計74万円。なお、独自に実施することは叶いませんでしたが、東北被災地への訪問は女性会連盟（仙台・石巻・気仙沼／6月21～23日）や東教区常議員会（福島・いわき／5月31日～6月2日）で行われました。女性会連盟では熊本の震災から一か月後のことでしたが、九州教区からの参加者もあり、その交流は特別なものとなりました。東北と熊本の体験者の分かち合い、また連盟のつながりとして全国の女性の祈りと支えに感慨を覚える時でした。

2016年、原発廃止を訴える書籍が2冊出版されました。「原発と宗教―未来への責任（いのちのことば社）」、「今こそ原発の廃止を―日本カトリック教会の問いかけ」（カトリック中央協議会）。支援活動

ルターナイツ

ルーテルアワー
biblestudy.jp

「ルーテルアワー」のサイト
【てあなの部屋】より

伊藤早奈



宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える (58)

ルター研究所長 鈴木 浩

「イエス・キリストの十字架での苦難と死の中に、神は啓示されていると同時に隠されている」(ハイデルベルク討論、1518年)と語るルターは、何を言おうとしているのだろうか。「隠された啓示」などは、形容矛盾ではないのだろうか。「啓示」とは「隠されていたものを明らかに示す」という意味だからである。

ルターは、「イエス・キリストの十字架での苦難以外の場所では、神は決して認識されない」とも語っている。しかし、十字架の上に見られるのは、ナザレ出身の木工の苦難と死の姿だけである。どう見ても、それが「神の姿」であるとは思えない。

なぜか。われわれは神について、漠然としているかもしれないが、一定の「事前理解」を持っている。神は「全知全能」であるとか、「万物の創造者」であるとかいった考えである。つまり、神について何らかのイ

メージを持っているのだ。そのイメージからすると、十字架の上で苦難を受け、死んでいったナザレの木工の姿は、少しも「神らしくない」のである。しかし、ルターは、そのような姿以外には、神を知ることばきない、と主張する。

モーセに対する神顕現の場面でも、エリヤに対する場面でも、神は「通り過ぎて行く」。だから、モーセもエリヤも、「神の背中」しか見ることができない。だから、それは「間接的な」啓示でしかない。

イエス・キリストの十字架での苦難と死も、「間接的な」啓示でしかない。しかし、そこにしか神を知る場はない。だから、神の姿は、「啓示されている」と同時に「隠されている」のだ。少しも「神らしくない」ナザレのイエスの苦難と死の中に、神の啓示を見ることを可能にさせるのは「信仰のみ」だ、とルターは主張する。

日本福音ルーテル教会・カトリック教会 宗教改革500年 共同記念行事 入場整理券 申し込みのご案内



カトリック浦上教会

日本福音ルーテル教会・カトリック教会 宗教改革500年 共同記念行事 入場整理券 申し込みのご案内

「平和を実現するものは幸いです」が2017年11月23日(木)10時~15時、カトリック浦上教会にて開催されます。ご参加に際して、入場整理券が必要となります。

お申し込みはインターネットで受け付けます。以下のURLより、必要事項を入力の上、お申し込みください。

http://500peacejels.net/ スマートホンなどでは左記2次元コードからもアクセスできます。



日本福音ルーテル教会と日本カトリック司教協議会とが共同主催し、「宗教改革500年共同記念

・インターネット環境をお持ちでない方には、教

- 必要記入事項 (グループでお申し込みの場合、一部省略可)
- ・名前(よみがな)
- ・連絡先電話番号
- ・連絡先住所
- ・連絡先メールアドレス
- ・所属教会名
- ・車椅子での参加有無
- ・手話通訳希望有無
- ・羽田空港発着のツアー(上五島観光含む、11月21日~24日) 参加希望有無

西教区宗教改革500年記念大会/西教区女性会 教区花みずきの集い

日時 2017年3月19日(日) 16時~20日(月) 15時30分
場所 日本福音ルーテル大阪教会/ホテルザル

テル(大阪市中央区谷町3-1-6) 宗教改革により、賛美することが限られた人に許されたものから会衆の宝物となったことを覚えて賛美歌を味わい、学び、み言葉に養われる時が計画されています。

3月19日 15時30分 受付 16時~16時30分 教区花みずきの集い 開会礼拝 16時30分~18時15分 教区花みずきの集い 講演と讃美『賛美歌誕生500年』 賛美歌を通してみ言葉に養われる

Evangelisch-lutherische Landeskirche in Braunschweig

宗教改革500年記念聖歌隊員 ドイツ・ブラウンシュヴァイク 派遣について



日本福音ルーテル教会とまもなく50年に至る協力関係を与えられている

ドイツ福音主義教会のブラウンシュヴァイク州教会では、宗教改革500年記念事業のひとつとして、ハイドンのオラトリオ『天地

創造』の公演を企画されました。このためにオーケストラの他、700人の聖歌隊を編成する大きな演奏会です。

ブラウンシュヴァイク州教会では、この聖歌隊のメンバーとして、日本福音ルーテル教会の他、関係する海外諸教会にも参加を呼びかけ、神が創造された世界に住む私たちが共に神とその業を賛美する時を持つようとしています。

オラトリオ『天地創造』はハイドンの晩年に当時の職業作曲家として珍しく、自身の発案により制作された大曲であり、オラトリオ『四季』と並びハイドンの作曲家としての頂点にあるものと評されます。1798年にウィーンにおいて初演されました。「創世記」と「詩編」そして「ミルトンの『失楽園』を題材とし、混沌からアダムとエバまでが描かれ、「全」の声よ、主に向かつて歌え」との賛美で締めくくられます。

公演は今年9月10日であり、派遣期間は、現地での練習と公演後のウィッテンベ



ブラウンシュヴァイク

派遣期間 15時~15時30分 宗教改革500年記念大会 派遣聖餐礼拝

J3 退任挨拶
ルカ18:28 30を贈ります。九州学院での働きを終えた今、私の心は喜び・悲しみ・興奮・感謝などの多くの感情で満ちています。イエスの言葉は真実です。イエスに従うならば、私たちの命はより豊か

満たされたものとなり、新たな兄弟姉妹と共に祝福されます。この2年間、私の人生を充実させ豊かにしてくださった、主にある日本の兄弟姉妹の皆さんに感謝します。皆さんはいつも私の心の中に住み、私の祈りの中にいることでしょう。私はいつも九州学院の生徒と先生たちを思い起こし、大江教会と熊本教会の美しくて世話好きな人たちに会えないことを寂しく思うことでしょう。去らねばならないことは悲しいことですが、私の心は熊本での思い出と、大好きなすばらしい人々に満たされることでしょう。

私は日本で素晴らしい経験をし、決して忘れることのできない出会いとつながりを与えられました。日本の教会と学校が私に与えてくれたすべての愛と支援に感謝しています。本当にありがとうございました!

退職にあたり

市原正幸



1965年4月、日ル本ルーテル神学大学「第2期生として入学が許されました。高校を卒業したばかりの18歳でした。送り出し、ご支援を続けてくださったのは、天王寺教会、授洗は森勉牧師でした。まだ東京オリンピックの余韻が残る大都市の中で中野区鷺宮の敷地は静寂でした。満開の桜が校舎とルター寮を

抱いてくれていました。鷹宮のキャンパスで4年、三鷹に移転して2年、計6年間の研鑽の日々は、大阪弁丸出しの生意気な神学生でしたが、多くの方々に出会い、包んでいただきました。1971年3月、24歳で「按手礼」九州教区・延岡教会（宮崎県）に派遣されて、牧会者とされました。在任は3年間だけの短期となりました。妻と出会い、結婚を機に、西教区・徳山教会に転任して、二人三脚での働きをスタート

するために、岡山教会を8年間、現任の西宮教会では27年間を数えて、定年引退を迎えました。それぞれに、会員をはじめそのご家族、お交わりを許されたみなさんたち、忍耐の大きさに支えられての46年間です。今、任を与えられて教会にお仕える務めは終わります。しかし、牧師としての召命は生涯にわたると感謝して受け止めた。夫婦二人だけでなく、家族を含めてのご奉仕がこれからもどの様に開かれていくのか、主の召しに応える日々を重ねたいと

祈りつつ。ありがとうございました。

乾 和雄



太田先生や江藤先生はじめ、多くの皆さまのお導きをいただき、64歳で按手に与かり、定年までの5年間、神戸東教会で信徒の皆さまのこまやかなお支えをいただきました。ルターがベスト流行の町に留まり続けたことを例にあげ、「るうてる紙上で新任の挨拶をさせていただいた日のごま、まさに短い間でしたが、神

さまが日々生きて働いておられることを、奇跡とも思える数多くの恵みの出来事を、目の当たりにさせていただいたことは有難いことでした。また「聖書日課」のメッセージを通して、各地の皆さまからご質問やあたたかなお励ましをいただきました。また、毎年10月に行なわれる「聖書日課セミナー」で、全国の読者の皆さま方と親しいお交わりをいただいたことも有難いことでした。

昨年私の不注意から少し体調を崩しましたが、今はとても元気です。4月から神戸の聖書学院で、

ルター神学の講義も仰せつかっていきます。主のお守りのうちに、これからもさまざまな場で、与えられたみ言葉のご奉仕をさせていただきます。どうか引き続き、このような小さな者のためにお祈りに覚えてくださいますように心よりお願い申し上げます。

長岡立一郎



45年前、つまり1972年に按手礼を受け、最初の任地は熊本八代教会（人吉教会も兼務8年間）でした。その後、広島

学院の理事長（専従）として遣わされ、2011年には、創立100周年事業を終えることができました。いよいよ私自身、着陸態勢に入ったところです。45年間の歩みを振り返ります時、私自身、一つのテーマがありました。それは日本社会への宣教という課題の中で、「日本人の福音の受肉」がいかに実現できるかという問題意識で取り組んでまいりました。ですから常に日本社会の歴史や文化に関心を持ちつつ、社会の中の病院、学生センター、そして学校へと赴いた歩みでした。これらの歩みを導かれたことに対して、皆さまと多くの方々に感謝しつつ。

学院の理事長（専従）として遣わされ、2011年には、創立100周年事業を終えることができました。いよいよ私自身、着陸態勢に入ったところです。45年間の歩みを振り返ります時、私自身、一つのテーマがありました。それは日本社会への宣教という課題の中で、「日本人の福音の受肉」がいかに実現できるかという問題意識で取り組んでまいりました。ですから常に日本社会の歴史や文化に関心を持ちつつ、社会の中の病院、学生センター、そして学校へと赴いた歩みでした。これらの歩みを導かれたことに対して、皆さまと多くの方々に感謝しつつ。

教会推薦理事研修会

副議長 大柴譲治

1月9日、市ヶ谷センターにおいて「教会推薦理事研修会」が行われた。これは、るうてる法人会連合の2007年総会で決議されて以来、毎年1月に日本福音ルーテル教会（JELC）主催というかたちで行っているJELC教会規則第74条に基づく教会推薦理事に関する研修会で、今回で9回目となる。宗教法人、学校法人、社会福祉法人、幼稚園・保育園

から19名の代表が集まり、「2017年 Lutheran Formation ~ Reformation を継承する共同体」という主題の下に協議を重ねた。立山議長の開会礼拝に始まり、JELC（立山忠彦）、ルーテル学校法人会（九州学院理事長・長岡立一郎）、ルーテル社会福祉協会（るうてるホーム常務理事・石倉智史）、幼稚園・保育園連合会（大森ルーテル幼稚園園長・竹田孝二）が発題し、それぞれを受けて4つの分団に別れて協議し、最後に全体で分かち合ってまとめました。

今から30年前に始まった宗教改革 Re-formation」

運動が当時の民衆の魂の（スピリチュアル）ニーズに「聖書のみ言（コトバ）」をもって応えるかたちで展開されていったことを想起しつつ、これまで同様私たちのそれぞれが置かれた具体的な状況と働きを通して変化してゆく現代社会・地域のニーズに、信徒以外のサポートも得ながら、今後も応えてゆくべきことが確認された。

「宣教」を「伝道」「教育」「奉仕（ディアコニア）」と包括的に受け止めてゆくところから「るうてる法人会連合」は2002年に組織されたが、それまた「信仰のみ」「恵みの

「るうてる法人会連合」に属する諸団体は、創設の精神（ミッションスピリット）を大切にしつつ、プロ集団としての論理と倫理と技能とを高く保ちながら、誠実に現場のニーズに関わってゆくことになる。どのように社会が変化してゆこうとも、私たちは自らの最初の「主の召命」に忠実に歩んでゆきたいと思う。このような他職種横断的な研修会は私たちに課題と共に目標を立体的に描き出すことを助けてくれるし、現場での誠実な取り組みが相互に刺激と励ましを与えてくれるものであったことを感謝したい。

1980年4月に沼津教会・下土狩教会から始まって、2017年3月に唐津教会・小城教会で閉じようとしています。出会いもあり、失敗もあり、助けられ、日本福音ルーテル教会の組織の中で、「神の国」を求めながらの道でありました。ルーテル教会組織は、アスマラ宣言後の「自給路線」の方

箱田清美



いよいよ、退任の挨拶をさせていただきます。ただ、順番になりました。1980年4月に沼津教会・下土狩教会から始まって、2017年3月に唐津教会・小城教会で閉じようとしています。出会いもあり、失敗もあり、助けられ、日本福音ルーテル教会の組織の中で、「神の国」を求めながらの道でありました。ルーテル教会組織は、アスマラ宣言後の「自給路線」の方

策の時期でしたが、未熟のままの新任牧師としてそれに加えられました。赴任教会の集まりを通して、多くの信徒方との出会いを与えられ感謝をしています。初任地で出会ったあるご家族は、牧師家庭の生活を慮ってか、毎年贈り物を届けてくださいました。30数年過ぎた今でも、それは続いています。初任地は新婚でしたが、いつしか5人家族となりました。贈り物は、その時々にならわしたち家族の必要としている服や日用品でした。リサイクルの品でしたが、子どもの成長に連れてその服も大きくなり、わたしのお腹に合わせてカジュアルなものも入れてあり、しかも、1品だけは、流行の新品が添えられていたのです。遣わされた地で、この贈り物にわたしたちはどれほど励ましを受けたことか。今後、聖書によって立てられた霊的集まりを求めて、失敗の連続がわたしには続くでしょう。再び、旅の衣を整えたいと願っています。お祈りをお願いします。

